



耕耘機事故の3つの特徴

1 圧倒的に多いバック時の事故

- バックの時、後ろの立木、格納庫の壁などに押しつけられ、首が挟まって窒息。
 - バック時に足下が引っかけ、躓いて、そのままロータリーに巻き込まれた。
- ⇒後退、バックの際は、必ず後ろを確認。

2 固い土・石等でのダッシング・キックバック

- ダッシング ⇒最初から深く耕さない
- キックバック ⇒ロータリーと足の位置は常に余裕を持って

3 車への積み降ろし時の事故

- ⇒確実に歩み板を固定して！

1 圧倒的に多いバック時の事故

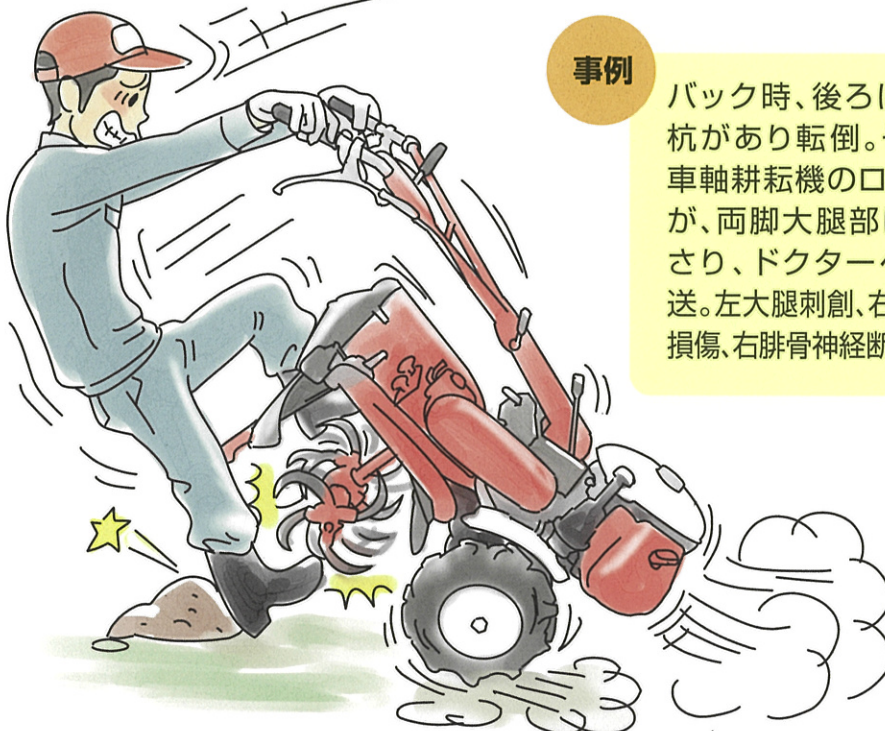
①バック時、立木・建物(ハウス)に押しつけられて



事例

ハウス内で車軸耕耘機をバックさせたところ、ハウスの壁に押しつけられた。ハンドルが持ち上がり、ロータリーに足が巻き込まれる。右腓骨神経断裂。

②バック時、足がつかずいて



事例

バック時、後ろに鉄製の杭があり転倒。そのとき車軸耕耘機のロータリーが、両脚大腿部に突き刺さり、ドクターヘリで搬送。左大腿刺創、右下肢開放損傷、右腓骨神経断裂。

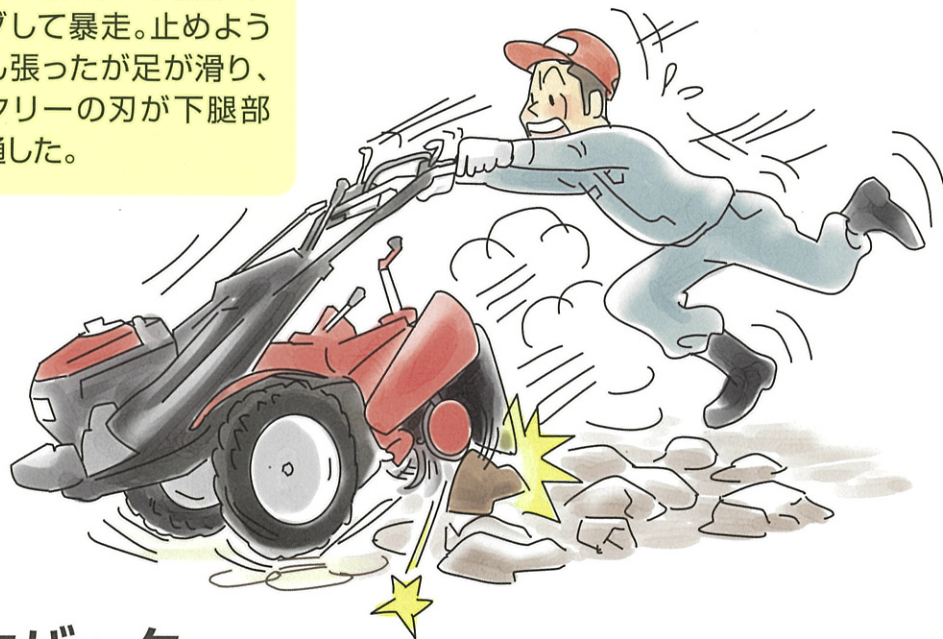
耕耘機のバックは、必ず振り返って後方確認を！

2 硬い土、石などの障害による事故

① ダッシングによる暴走

事例

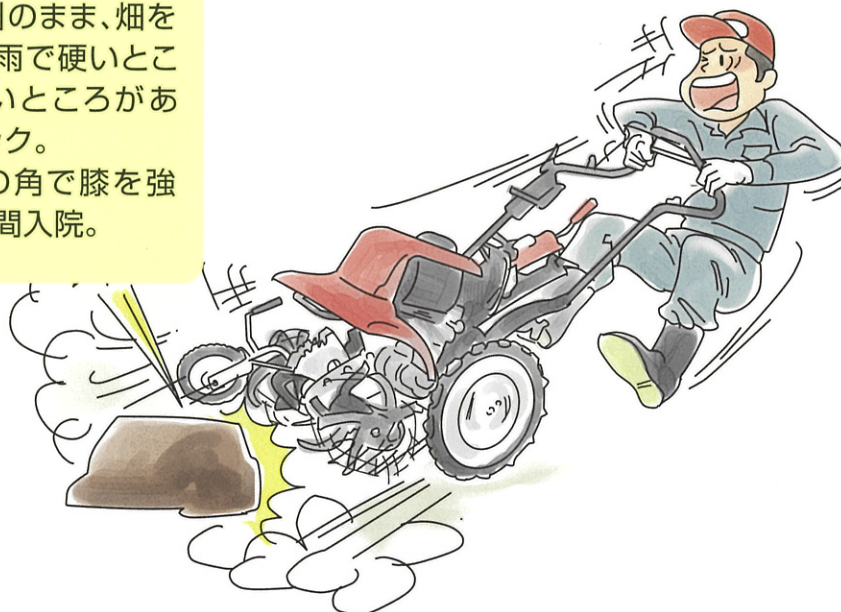
硬い土の耕耘中、突然ダッシングして暴走。止めようと踏ん張ったが足が滑り、ロータリーの刃が下腿部を貫通した。



② キックバック

事例

ギアを「高速」のまま、畑を耕耘。前日の雨で硬いところと柔らかいところがあり、キックバック。燃料タンクの角で膝を強打、裂傷、7日間入院。



硬い土、石など、ダッシング・キックバックの可能性
高速回転、一気の深起こしは厳禁!

3 車への積み降ろし時の事故



事例

クラッチを入れたら動き出したので、バックギアが入っていると思い、後ろに引いたら、実際はニュートラルとなっていて、そのまま歩み板を滑り落ち、転倒。腰を強打、腰椎圧迫骨折。

小さい、軽いとあなどらず、確実な積み降ろしを！

その他の事故

① 圃場内の異物が絡まり

⇒事前に圃場、環境の点検を

- 休耕地の除草中、針金がロータリーに絡まって巻き込まれ、下肢切断。

② 「軽い」ので、安易に持ち上げて

⇒「軽い」からと侮らない、確実な作業を

- 畝間の移動時、手で持ち上げクラッチが近くの枝に引っかかった。クラッチが入って、車軸耕耘機のロータリーが回転、大腿部に刃が食い込む。
- 軽トラックに手で持ち上げ積み込んで、腰椎圧迫骨折。

③ めかるんだ圃場で、足が抜けなくなって

- 靴に泥が吸い付いたようになり、無理に引き抜こうとして、足首捻挫、腰痛など。